

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5 月 25 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520262

研究課題名（和文） ソローの愛した子供たち—超絶主義思想と教育改革

研究課題名（英文） Children Thoreau Loved: Transcendentalism and Educational Reforms

研究代表者

高橋 勤（TAKAHASHI TSUTOMU）

九州大学・言語文化研究院・教授

研究者番号：10216731

研究成果の概要（和文）：

本研究課題（2009-2011年）の期間中、3度の海外研修（ハーヴァード大学ワイドナー図書館、コンコード図書館）を行なったほか、図書の出版2件（単著および共著）、論文3件、学会発表5件の成果を得た。さらにこの研究の一部から着想された「コンコード・エレミヤ — ソローの時代のレトリック」が科学研究費補助金基盤研究 C（課題番号 24520294）に新たに採択された。

研究成果の概要（英文）：

During the research period (2009-2011), I made five conference presentations and published three articles in professional journals in my field. Also I made three research trips to Massachusetts US, mainly to Widener library at Harvard and Concord Free Public Library. My biggest contribution to American literary studies in Japan is the publication of my monograph, *Concord Jeremiad: Thoreau's Rhetoric of the Age*, which appeared in April 2012, two chapters out of whose total nine chapters are closely linked with the current project. Additionally, out of this research project emerged the idea for the next project titled "Concord Jeremiad," for which I was awarded the *kaken* grant (C) for 2012 through 2014.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：ヨーロッパ語系文学

キーワード：ヘンリー・ソロー、ラルフ・エマソン、ブロンソン・オルコット、超絶主義思想
教育改革、子供のイメージ

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究を開始する段階において、申請者はすでに2件の科学研究費の給付を受けていた。そこで一貫して試みたことは、従来アメリカン・ルネッサンスの文学として神話化されたエマソンやソローの文学を19世紀の政治思想との関連において歴史化し、マサチューセッツ州コンコードの精神風土と超絶主義者の知的交流の中から生まれた「コミュニティの文学」として捉え直すことであった。

(2) 本研究課題において試みたことは、ソローの教師体験を起点として、19世紀中盤におけるマサチューセッツの教育改革の動きを検証することであり、その改革思想と超絶主義思想との関連性を考察することであった。特に注目したのは体罰の問題であり、ニューイングランド地方における子供をめぐる認識の変化に伴い、体罰を含めた教育制度が大きく変容した事実を追求した。

(3) さらに、本研究課題はエマソンを中心とした超絶主義思想を考察する上で貴重な洞察をもたらしてくれると考えた。なぜなら、超絶主義思想とは人間の生来の存在に注目した思想であったからである。そうした「生来の」直観力をかれらは「理性」と呼んだのであり、子供（特に幼児）の存在においてもっとも純粋なかたちで顕現されると考えたのである。ソローやエマソン、さらにブロンソン・オルコットやエリザベス・ピボディらの超絶主義思想家の子供観を検証し、その教育改革思想を考察することで超絶主義思想の核心に触れることができるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ヘンリー・ソローの子供観・教育思想を手がかりとして、超絶主義者によって共有された教育思想を考察するとともに、19世紀前半、マサチューセッツ州に起こった教育改革運動という歴史的な文脈におき直して検証することであった。より具体的に、本研究課題は以下のような三つの観点から考察を進めた。

(1) ソローの教師体験を起点として、ソロー、エマソンの作品に見られる子供観・教育思想を整理する。

ソローがハーヴァード大学卒業後、故郷のコンコードで初等教育に携わったことはよく知られている。体罰の慣習に反発してわずか2週間で学校を辞任したこと、兄ジョンとともに開設したコンコード・アカデミーの独自のカリキュラムなど、ソローの個性と反骨精神を伝説化する要因とされたのだが、他方において、当時進行中であった教育改革の思潮の流れのなかにも、ソローの実践を位置づける試みはなされてこなかった。本研究では、19世紀前半マサチューセッツ州において展開された教育改革とその思想について検証し、そうした社会的な文脈の中にソローの教師体験と教育思想を位置づけるものであった。

(2) ブロンソン・オルコットのテンプル・スクールにおける実践を考察し、その教育改革の思想について検証する。

1830年代前半、ブロンソン・オルコットはボストンにおいてテンプル・スクールという初等教育を実践した。その方針の一つに体罰の放逐があったのだが、ソローはその報告書『学校の記録』を読み、大きな感化を受けていたのである。また、ソローがセンター・スクールに着任した30年代後半、ボストン周辺において体罰に反対する運動が起こっていた。教育家ヘンリー・バーナードがボストンにおいて体罰の禁止について講演し、体罰の

習慣を再考するムードが教師の間で広がっていたし、さらに1840年代にはソローとも面識のあったホラス・マンがマサチューセッツの教育主事となり様々な改革に取り組むのだが、その一つの目標が体罰の撤廃だったのである。ソローの教育思想をより深く考察するうえで、オルコット、さらに幼児教育のパイオニア的存在であるエリザベス・ピボディの思想と実践を検証する。

(3) 超絶主義思想における「子供」の意義を考察する。

いっぽう、ソロー、エマソン、オルコットらの超絶主義者にとって子供観は決定的な重要性を孕んでいた。なぜなら、超絶主義思想とは人間の生来の存在に注目した思想であったからである。そうした「生来の」直観力をかれらは「理性」と呼んだのであり、子供（特に幼児）の存在においてもっとも純粋な私たちで顕現されると考えたのである。このプロジェクトでは、ソローの教師体験を起点として、当時マサチューセッツ州で進行中であった教育改革の思想と実践を考察し、さらに超絶主義思想における「子供」の意義を考察する。

3. 研究の方法

(1) 2009年度の研究計画は、まず、ソローの教師体験を起点として、ソローの子供観および教育思想を考察し、さらに同時代的な視点からエマソンの子供観・教育思想についても考察であった。この計画に沿って、前年度の日本英文学会80回大会において研究発表した「ソローの愛した子供たち — 超絶主義思想と教育改革」をさらに発展させて論文にまとめる作業を行なった。実質的には、2009年の夏期にハーヴァード大学ワイドナー図書館、およびコンコード図書館において調査・資料収集を行ない、さらにソロー、エマソンに関する二次

資料、ニューイングランド文化史関連の図書を購入した。

(2) 2010年度の研究計画は、19世紀前半マサチューセッツ州における教育改革の実践に関して文献を調査することであった。この計画に沿って、ブロンソン・オルコットのテンプル・スクールの実践について考察を深め、のちに幼児教育のパイオニアとなったエリザベス・ピボディの思想についても検証した。実質的には、2010年の夏期にハーヴァード大学ワイドナー図書館、およびコンコード図書館において調査・資料収集を行なった。また、ブロンソン・オルコット、エリザベス・ピボディ関係の研究書、教育改革思想関係の図書を購入した。

(3) 2011年度の研究計画は超絶主義思想における子供観を研究することであった。エマソンとソローの子供観の相違点について着目し、観念として思想化された超絶主義の子供観を考察するとともに、自己修養 (self-culture) の思想と教育改革の思想がいかに関連づけられたかを考察した。実質的には、2011年の春期にハーヴァード大学ワイドナー図書館、およびコンコード図書館において調査・資料収集を行なった。また、アメリカ超絶主義思想関連の図書を購入した。

4. 研究成果

(1) 2009年には、本研究課題に関連する成果として、「ソローと暴力 — ジョン・ブラウン弁護の一考察」『アメリカ文学研究』45号（日本アメリカ文学会、2009年、pp. 1-16）を公表したほか、「自己の詩学 — ソローにおけるエゴイズムの諸相」（九州アメ

リカ文学会 55 回大会、於鹿児島大学、2009 年 5 月)、および「アメリカ先住民とソローの言語観」日本ソロー学会シンポジウム「ソローとアメリカ先住民」(於立正大学、2009 年 10 月) という 2 件の研究発表を行った。

(2) 2010 年度の研究計画は、19 世紀前半マサチューセッツ州における教育改革の実践に関して文献を調査することであった。実質的には、夏期にハーヴァード大学ワイドナー図書館、およびコンコード図書館において調査・資料収集を行ない、執筆中であった単著の 2 章に「ソローの愛した子供たち」という論考を組み入れた。さらに日本英文学会 82 回大会において「コンコード・エレミヤ — ソローの時代のレトリック」という研究発表を行ない、*Proceedings* にその内容を掲載した。研究成果としては、上記「ソローを愛した子供たち」の執筆のほか、ミネルヴァ書房より『<移動>のアメリカ文化学』(共著、2011 年) を刊行した。担当したのは 2 章「アメリカン・ヒーローと進歩思想」であり、<移動>という概念をキーワードとして 19 世紀の超絶主義思想を考察した。

(3) 2011 年度の研究計画は超絶主義思想における子供観を研究することであった。エマソンとソローの子供観の相違点について着目し、観念として思想化された超絶主義的子供観を考察するとともに、自己修養 (self-culture) の思想と教育改革の思想がいかに関連づけられたかを考察した。

実質的には、単著『コンコード・エレミヤ — ソローの時代のレトリック』の 2 章に「ソローの愛した子供たち」という論考を加え超絶主義思想と教育論の関連につい

て考察したほか、最終章 (9 章) に「コンコードと日本 — ウィリアム・ウィーラーの見た日本」を執筆し、マサチューセッツの教育改革の延長線において札幌農学校が構想された経緯を論じた。また、本研究課題に関連する研究発表、「オールド・マンズとコンコード言説」を日本ホーソーン協会シンポジウム (於西日本総合展示場、2011 年 5 月 20 日) に、さらに「デラーノ船長のマサチューセッツ: “Benito Cereno” と奴隷解放論」を日本アメリカ文学会第 48 回全国大会 (於関西大学、2011 年 10 月 8 日) において行なった。

研究成果としては、上記単著 (2012 年 4 月刊行) のほか、「果てしなき宇宙—超絶主義思想と天文学」『英語英文学論叢』第 62 集 (九州大学英語英文学研究会、2012 年、pp. 1-18) を執筆した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

(1) 「ソローと暴力 — ジョン・ブラウン弁護の一考察」『アメリカ文学研究』(日本アメリカ文学会) 45 号、2009 年、pp. 1-16.

(2) 「アメリカ先住民とソローの言語観」『ヘンリー・ソロー研究論集』(日本ソロー学会) 36 号、2010 年、pp. 53-62.

(3) 「果てしなき宇宙—超絶主義思想と天文学」『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会) 第 62 集、2012 年、pp. 1-18.

[学会発表] (計 5 件)

(1) 「自己の詩学 — ソローにおけるエゴイズムの諸相」九州アメリカ文学会 55 回大会、於鹿児島大学、2009 年 5 月。

(2) 「アメリカ先住民とソローの言語観」日本ソロー学会シンポジウム「ソローとアメリカ先住民」、於立正大学、2009 年 10 月。

(3) 「コンコード・エレミヤ — ソローの時代のレトリック」日本英文学会 82 回大会、於神戸大学、2010 年 5 月。

(4)「オールド・マンスとコンコード言説」
日本ナサニエル・ホーソーン協会第 30 回
全国大会シンポジウム『アメリカン・ルネ
ッサンス研究の新潮流』、於西日本総合展示
場、2011 年 5 月。

(5)「デラーノ船長のマサチューセッツ：
“Benito Cereno”と奴隷解放論」日本アメリ
カ文学会第 48 回全国大会、於関西大学
2011 年 10 月 8 日。

[図書] (計 2 件)

(1) 山里勝己編『<移動>のアメリカ文
化学』ミネルヴァ書房、2011 年、総
266 ページ (共著、担当 2 章、45-65
ページ)

(2) 高橋勤著『コンコード・エレミヤ
ーソローの時代のレトリック』金星
堂、2012 年、総 283 ページ。

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者 高橋 勤
(TAKAHASHI, Tsutomu)
九州大学言語文化研究院・教授

研究者番号：10216731